

みんなの党
みんなの党

みんなの党通信

Mar.2012 Vol.015

みんなの党 東京都第1区支部 発行

〒107-0052 港区赤坂9-6-11-502

Tel:5772-6781 Fax:5772-6782

e-mailto: taro@kpsaioffice.com

URL: http://www.kpsaioffice.com/

みんなの党
みんなの党

衆議院
東京都第1区
支部長



こさい 小齊 太郎

の決意表明

- ・私は16年間、主に港区議会議員として地方政治に携わってきた。議会では役所主導の政治を変えるために戦ってきた。
- ・同時に、地域に最も身近な政治家として、町会や商店会・消防団などの活動で、地域の皆さんとともに汗を流してきた。
- ・そこから見える普通の暮らし、普通の生活。その中から政治のやるべきことが見えてくる。
- ・地域の方々と一緒に活動してきたこと。これが、政治家・小齊太郎のかけがえのない財産であり、最大の武器。
- ・「普通に暮らす」ということに思いを致せるかどうか。簡単なようだが、長く権力にいる人たちには簡単ではないようだ。
- ・徹底した行政改革なし。ムダづかいそのまま・天下りシステム温存のまま突き進む、増税。
- ・徹底した規制改革なし。役所に守られたオイシイ産業そのまま、経済成長を本気で目指さない姿勢。
- ・徹底した事故検証や責任追及なし。原発事故の影響がどれだけ大きなものになるか分からないままの原発再稼働・輸出解禁。
- ・思いを致せないことを物語っている。
- ・これらはすべて「既得権温存」の姿勢であり、小齊太郎とみんなの党は、皆さんとともにこれを打ち破りたい。
- ・頑張った人が報われる、うまくいかなかった人に手を差し伸べる、明るく、元気で、豊かな、そして温かい日本社会をつくるために。
- ・小齊太郎・みんなの党と似たようなことを言う政治家が他の政党にもいる。
- ・しかし、民主・自民、どちらかに入っていれば当選できるという既得権の中、結局は「言うだけ番長」、改革実行不可能。

→ 裏面に続きます →

小齊太郎の略歴

1970年(昭和45年)1月16日 東京・渋谷区生。

渋谷区立千駄ヶ谷小学校、私立早稲田中学・高等学校を経て、1993年(平成5年)早稲田大学社会科学部卒業。

港区には、1983年(昭和58年)南青山に転入。

都議会議員秘書・代議士秘書として勤務後、

1995年(平成7年)港区議会議員選挙に立候補。最高位当選、以降連続四期、任期満了で退任。その間、2004年(平成16年)港区長選挙に立候補、次点落選のため、三年間の浪人生活を経験。

地元の皆さんとともに、消防団活動、町会・商店会活動、青少年地区委員会活動等にも積極参画。

- ・だから、みんなの党が「大改革の旗」を掲げて、先頭を走る。必ず、「旗」の下に多くの人たちが集まる局面が来る。
- ・そうでなければ、決められない政治が続き、日本は下り坂を転げ落ちてしまう。
- ・だから、小斉太郎・みんなの党は絶対にぶれない。
- ・例えば、「増税をする前にやるべきことがある！」みんなの党が結党以来一貫して訴えてきたこと。
- ・今や、党派を超えたスローガンとして、多くの議員が国会で口にするようになった。
- 時代は必ず動く、残された時間はそう多くない。そして、やるべき政策メニューは揃っている。
- ・覚悟を決めているみんなの党は、国民の皆さんから力を与えて頂ければ、必ず「やる!」「どうせ出来ないだろう」の批判は当たらない。
- ・大手術をやらなきゃいけない今、小斉太郎を政治家として使ってもらうには、最も適した時だと自負している。
- ・これまで、大勢力に与せず、ひよったりぶれたりすることなく、役所の仕事を厳しくチェックし続けた経験を、必ず活かすことができる。
- ・さらに、利害関係による応援を一切受けずにここまで来た。「誰に応援されているか」によって、改革の成否が決まる。
- ・今の民主党が、古くは自民党が、労組や役所にまつわる既得権団体に応援される、その動かざる実例だ
- ・大手術が終わって、死ぬまで政治家をやるなんて言うつもりはさらさらない。大手術までが出番だと心得ている。
- ・「議員であり続けたい」という私欲が、改革の最大の阻害要因だ。
- ・だからこそ今、私・小斉太郎が力を発揮できる時、と確信している。
- ・「普通に暮らす皆さん」の「当たり前」の思いを政治に届けるために、ベンチャー企業が大企業に、ハンデなしで勝負を挑む。

小斉太郎

みんなの党は「増税なき復興」「脱・原発」（民主党・野田新首相は大増税推進、原発温存路線…）

～ みんなの党は、独自法案提出をはじめ、具体的提案を重ねています ～

増税の前に「徹底した行政改革」を！

- ☆ 国会議員歳費の削減 →【みんなの党】給料 30%・ボーナス 50%削減の法案を毎国会提出（民主・自民は審議に応じず）
- ☆ 国家公務員人件費の削減 →【みんなの党】総人件費の 20%削減法案(1兆円削減)毎国会提出。（上に同じ）
- ☆ 役所のへそくりにメスを →【みんなの党】国債整理基金特別会計の 10 兆円、労働保険特別会計の 5 兆円の活用を提案中。

電力自由化を通じた「脱・原発」を！

- ☆ 国民の意志を反映させたエネルギー計画の見直しを！ ～ 原発国民投票法案を提出 ～
- ☆ 原発の安全性の厳しい再評価を行い、運転停止は政府・国会の責任で！ ～ 原発緊急評価法案を提出 ～
- ☆ 東電破綻処理・一次国有化と電力自由化・送発電分離を！ ～ 原子力損害賠償支援機構法・修正案を提出 ～

《コサイの視点》

民主党は「消費税増税法案の通常国会提出」を決めた。これからの日本経済に与える影響も極めて深刻な「大増税」。とめどない負担増の社会の幕を開かせてはならない。また、民主・自民は「原発輸出解禁」を国会決議し、「原発再稼働」にも前のめり。原発事故の重大さや放射線被害の深刻さに思いを致せない。独占電力供給体制温存、原発再稼働、お上による電気料金決定システムの維持、等々。いずれも、徹底した事故の原因究明をおろそかにし、責任の所在も曖昧にすることになる。将来、本当に健康被害を生じさせないか。現実を直視できない、本当のことを明らかにしない現政権の姿勢は、見過ごすことはできず、許せない。みんなの党・私小斉太郎は、「脱・原発!」。健全な競争の下、安全で安価なエネルギー供給ができる社会に向け前進を続ける。